（別紙様式4）

令和8年6月30日

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地
東京医薬看護専門学校	1983/12/23	須田　英明	〒　134-0084 （住所）　東京都江戸川区東葛西6丁目16番2号 （電話）　03－3688－6161
設置者名	**設立認可年月日**	**代表者名**	**所在地**
学校法人滋慶学園	1983/12/23	浮舟　邦彦	〒　134-0084 （住所）　東京都江戸川区東葛西6丁目16番2号 （電話）　03-5878-3311

分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度
医療	医療専門課程	臨床工学技士科	平成19(2007)年度	－	平成26(2014)年度

学科の目的	患者さんの命を守るための知識を身につけ、チームの一員として貢献できる臨床工学技士を養成する。
学科の特徴（取得可能な資格、中退率　等）	【取得目標資格】 臨床工学技士、第2種ME技術実力検定

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	単位時間	単位時間	単位時間	単位時間	単位時間	単位時間
			156 単位	137 単位（開設）	2 単位（開設）	17 単位（開設）	0 単位（開設）	0 単位（開設）

生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数（生徒実員の内数）(B)	留学生割合(B/A)
120 人	49 人	3 人	6 %

就職等の状況

■卒業者数 (C)	: 22	人
■就職希望者数 (D)	: 14	人
■就職者数 (E)	: 14	人
■地元就職者数 (F)	13	人
■就職率 (E/D)	100	%
■就職者に占める地元就職者の割合 (F/E)	93	%
■卒業者に占める就職者の割合 (E/C)	64	%
■進学者数	0	人

■その他

次年度国家試験合格後に就職　等

（令和　7　年度卒業者に関する令和8年5月1日時点の情報）

■主な就職先、業界等

（令和7年度卒業生）

東京女子医科大学病院、湘南鎌倉総合病院、三井記念病院、聖隷富士病院、池上総合病院、安房地域医療センター、成田富里徳洲会病院、苑田第一病院、ニプロ株式会社　他

第三者による学校評価

■民間の評価機関等から第三者評価：　有

※有の場合、例えば以下について任意記載

評価団体：特定非営利活動法人私立専門学校等評価研究機構　受審年月：平成26年4月　評価結果を掲載したホームページURL：https://www.tcm.ac.jp/school/public_info/third_party.html

当該学科のホームページURL

http://www.tcm.ac.jp

企業等と連携した実習等の実施状況（A、Bいずれかに記入）

（A：単位時間による算定）

総授業時数	2,595 単位時間
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	180 単位時間
うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間
うち必修授業時数	2,595 単位時間
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	180 単位時間
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位時間
（うち企業等と連携したインターンシップの授業時数）	0 単位時間

（B：単位数による算定）

総授業時数	単位
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位
うち企業等と連携した演習の授業時数	単位
うち必修授業時数	単位
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位
（うち企業等と連携したインターンシップの授業時数）	単位

教員の属性（専任教員について記入）

① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者	（専修学校設置基準第41条第1項第1号）	3 人
② 学士の学位を有する者等	（専修学校設置基準第41条第1項第2号）	0 人
③ 高等学校教諭等経験者	（専修学校設置基準第41条第1項第3号）	0 人
④ 修士の学位又は専門職学位	（専修学校設置基準第41条第1項第4号）	1 人
⑤ その他	（専修学校設置基準第41条第1項第5号）	0 人
計		4 人

上記①～⑤のうち、実務家教員（分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定）の数	3 人

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

（1）教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針

教育課程の編成において、必要となる最新の知識、技術を反映するため、企業・業界団体等の意見を活かし、教育課程の改善並びに改訂を定期的に実施することを目的とする。

（2）教育課程編成委員会等の位置付け

理事会のもとに位置づけて運営を行っている。学校で編成している教育課程を委員会に提示し、委員会で挙げられた意見を参考にしつつ、実践的な専門知識や技術を身につけられるよう教育課程を編成し、理事会の承諾のもと教育課程を決定する。決定された教育課程については、委員会に告知をするとともに継続的に検証を行っていく。

（3）教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和8年4月1日現在

名　前	所　　属	任期	種別
古島　昭博	学校法人滋慶学園　常務理事	令和8年4月1日～令和10年3月31日（2年）	―
岩村　勇	学校法人滋慶学園　運営本部長	令和7年4月1日～令和9年3月31日（2年）	―
須田　英明	東京医薬看護専門学校　学校長	令和8年4月1日～令和10年3月31日（2年）	―
一宮　頼子	東京医薬看護専門学校　副校長	令和8年4月1日～令和10年3月31日（2年）	―
飯野　伸子	東京医薬看護専門学校　副校長	令和8年4月1日～令和10年3月31日（2年）	―
大山　遥	東京医薬看護専門学校　教務部長	令和8年4月1日～令和10年3月31日（2年）	―
堀　延之	東京医薬看護専門学校　教務部長	令和8年4月1日～令和10年3月31日（2年）	―
笈川　あずさ	東京医薬看護専門学校　医療・医薬品バイオ研究学科・バイオデータサイエンス学科	令和7年4月1日～令和9年3月31日（2年）	―
小林　崇典	東京医薬看護専門学校　医療・医薬品バイオ研究学科・バイオデータサイエンス学科	令和7年4月1日～令和9年3月31日（2年）	―
久嶋　香里	東京医薬看護専門学校　化粧品総合学科	令和8年4月1日～令和10年3月31日（2年）	―
大野　光宣	東京医薬看護専門学校　化粧品総合学科	令和8年4月1日～令和10年3月31日（2年）	―
平上　恭弘	東京医薬看護専門学校　医療事務総合学科	令和8年4月1日～令和10年3月31日（2年）	―
河野　花絵	東京医薬看護専門学校　医療事務総合学科	令和7年4月1日～令和9年3月31日（2年）	―
田中　美月	東京医薬看護専門学校　医療事務総合学科	令和8年4月1日～令和10年3月31日（2年）	―
内藤　修治	東京医薬看護専門学校　言語聴覚士科	令和8年4月1日～令和10年3月31日（2年）	―
渡邉　健一	東京医薬看護専門学校　言語聴覚士科	令和8年4月1日～令和10年3月31日（2年）	―
鈴木　まゆ	東京医薬看護専門学校　視能訓練士科	令和8年4月1日～令和10年3月31日（2年）	―
杉﨑　俊則	東京医薬看護専門学校　臨床工学技士科	令和7年4月1日～令和9年3月31日（2年）	―
藤井　昭光	東京医薬看護専門学校　臨床工学技士科	令和8年4月1日～令和10年3月31日（2年）	―
坂口　晃	東京医薬看護専門学校　救急救命士科	令和7年4月1日～令和9年3月31日（2年）	―
渥美　栄一	東京医薬看護専門学校　救急救命士科	令和7年4月1日～令和9年3月31日（2年）	―
福田　昌彦	東京医薬看護専門学校　看護学科	令和7年4月1日～令和9年3月31日（2年）	―
藤田　雅美	東京医薬看護専門学校　看護学科	令和8年4月1日～令和10年3月31日（2年）	―
石見　杏奈	東京医薬看護専門学校　歯科衛生士科	令和8年4月1日～令和10年3月31日（2年）	―
本田　美紀	東京医薬看護専門学校　歯科衛生士科	令和7年4月1日～令和9年3月31日（2年）	―
冨澤　麻友子	東京医薬看護専門学校　歯科衛生士科	令和7年4月1日～令和9年3月31日（2年）	―
野口　考之	医療秘書教育全国協議会　事務局長	令和8年4月1日～令和10年3月31日（2年）	①
鹿沼　亮	IMSグループ　医療法人財団明理会　行徳総合病院　医事課　係長	令和7年4月1日～令和9年3月31日（2年）	③
小泉　理香	CELL株式会社　財務経理部長	令和8年4月1日～令和10年3月31日（2年）	③
安齋　寛	NPO法人　日本バイオ技術教育学会　理事長	令和8年4月1日～令和10年3月31日（2年）	①
吉田　大祐	有限会社　メイユウ商会　専務取締役	令和8年4月1日～令和10年3月31日（2年）	③
矢田　綾香	一般社団法人　日本化粧品検定協会　顧問	令和8年4月1日～令和10年3月31日（2年）	②
長岡　雄一	社会福祉法人　日本盲人社会福祉施設協議会　理事長	令和8年4月1日～令和10年3月31日（2年）	①
丸林　彩子	埼玉医科大学総合医療センター　主任　視能訓練士	令和8年4月1日～令和10年3月31日（2年）	③
近藤　敏哉	医療法人鉄蕉会　亀田総合病院　医療技術部ME室　副室長	令和8年4月1日～令和10年3月31日（2年）	③
井竹　康郎	一般社団法人　千葉県臨床工学技士会　理事	令和8年4月1日～令和10年3月31日（2年）	①
齋藤　健吾	新井クリニック　救急救命士	令和8年4月1日～令和10年3月31日（2年）	③
緒方　毅	国士館大学体育学部スポーツ医科学科　准教授	令和8年4月1日～令和10年3月31日（2年）	②
治田　寛之	千葉県言語聴覚士会　　理事	令和8年4月1日～令和10年3月31日（2年）	①
高添　真吾	医療法人社団武蔵野会TMG宗岡中央病院リハビリテーション科　主任	令和8年4月1日～令和10年3月31日（2年）	③
根本　秀樹	江戸川区歯科医師会　会長	令和8年4月1日～令和10年3月31日（2年）	①
小島　悠乃	医療法人社団フロンティア　やまわき歯科医院　主任 歯科衛生士	令和8年4月1日～令和10年3月31日（2年）	③
板橋　知子	公益財団法人東京都助産師会理事　江戸川区地区会長	令和8年4月1日～令和10年3月31日（2年）	①
内山　真弓	日本医科大学武蔵小杉病院　副看護部長	令和8年4月1日～令和10年3月31日（2年）	③

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
（当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「－」を記載してください。）
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、
地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
②学会や学術機関等の有識者
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

（4）教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期
（年間の開催数及び開催時期）
年2回 （8月、11月）
（開催日時）
第1回 令和8年 8月22日 15時～17時
第2回 令和8年11月28日 15時～17時

（5）教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

臨床工学技士として基礎的な実践能力を身につけるため、現場において必要となる知識や技術、医療における臨床工学技士の重要性について現場からの意見に基づき、カリキュラム運営に反映している。特に「臨床実習」「実習前教育」では変遷する医療や社会保障制度に柔軟に対応し、チーム医療を構成する一員としての責任と役割を学生が自覚できるように活かしている。

（別途、以下の資料を提出）
＊ 教育課程編成委員会等の位置付けに係る諸規程
＊ 教育課程編成委員会等の規則
＊ 教育課程編成委員会等の企業等委員の選任理由（推薦学科の専攻分野との関係等）※別紙様式３－１
＊ 学校又は法人の組織図
＊ 教育課程編成委員会等の開催記録

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

（1）実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針
臨床工学技士学校養成所指定規則に定められた行為の実施ないしは見学に対応する実習内容の提供が可能であり、かつ学校と連携して学生に対して指導を行う体制が整っている病院を選定している。かつ、各指導内容に対する専門的な知識に優れ、医師又は臨床工学技士として5年以上の実務経験及び業績を有し、十分な指導能力を有する実習指導者が在籍していることを条件としている。

（2）実習・演習等における企業等との連携内容
※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記
臨床工学技士学校養成所指定規則、及び臨床工学養成所指導ガイドラインに基づく以下の内容を実施する
（1） 血液浄化療法に関する実習
（2） 呼吸療法に関する実習及び循環器に関する実習
（3） 治療機器に関する実習及び医療機器管理業務に関する実習
（4） その他

（3）具体的な連携の例

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
臨床実習	臨床工学技士として基礎的な実践能力を身につけ、医療における臨床工学の重要性を理解し、チーム医療の一員としての責任と役割を自覚する。	順天堂大学医学部附属 順天堂医院、順天堂大学医学部附属 浦安病院、医療法人社団東光会 戸田中央総合病院、東京女子医科大学附属 足立医療センター、医療法人鉄蕉会 亀田総合病院 他

（別途、以下の資料を提出）
＊ 企業等との連携に関する協定書等や講師契約書（本人の同意書及び企業等の承諾書）等

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

（1）推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

学園の研修規程に基づき、教員の指導力の向上、授業力向上、クラス運営力の向上などを目的として研修計画の作成を行う。研修計画については外部機関も活用し、必要な知識や技術を向上できるように体系的に作成を行う。研修実施に際しては、教員個々の現場経験や教育経験、また学園在職期間等を考慮し、それぞれの対象に応じた到達目標を設定し、研修方法や評価指標を的確に定めて実施する。

（2）研修等の実績（令和7年度）
①専攻分野における実務に関する研修等

研修名： 第40回日本臨床工学技士教育施設協議会教員研修会　連携企業等：日本臨床工学技士教育施設協議会
期間： 令和7年5月31日,6月1日　対象：本科専任教員
内容 新カリキュラム、特に新しい臨床実習に向けた各校の対策、取り組みについての情報共有。

研修名： 第7回アジア臨床工学フォーラム　連携企業等：学校法人　大阪滋慶学園
期間： 令和7年11月1日　対象：本科専任教員
内容 アジア諸国における教育・人材育成の実践的取り組みの情報共有

研修名： 第30回千葉県臨床工学会　連携企業等：千葉県臨床工学技士会
期間： 令和8年1月25日　対象：本科専任教員
内容 臨床現場での最新研究や事例検討等

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名： ハラスメント研修　連携企業等：学校法人　滋慶学園
期間： 令和7年12月8日　対象：本科専任教員
内容 ハラスメントが起きる原因や背景、問題の構造を理解し、ハラスメント予防と初期対応の習得

研修名： 滋慶学園EAST教務全体研修　連携企業等：学校法人　滋慶学園
期間： 令和7年11月5日　対象：本科専任教員
内容 チームやクラスの中で自律協働できる人材を育成するためのキャリア教育の考え方と手法を学ぶ

研修名： 滋慶学園EAST教務全体研修　連携企業等：学校法人　滋慶学園
期間： 令和7年12月16日　対象：本科専任教員
内容 クラスマネジメントについて学ぶ

（3）研修等の計画（令和8年度）
①専攻分野における実務に関する研修等

研修名： 第36回日本臨床工学会　連携企業等：日本臨床工学技士会
期間： 令和8年5月　対象：本科専任教員
内容 志の醸成 ～臨床工学を未来に紡ぐ～ 最新研究や事例検討の情報共有等

研修名： 第41回日本臨床工学技士教育施設協議会教員研修会　連携企業等：日本臨床工学技士教育施設協議会
期間： 令和8年5月　対象：本科専任教員
内容 「臨床工学技士とITの関わり」「医療機器開発・研究分野における生成AI活用」を中心とした研修

研修名： 第31回千葉県臨床工学会　連携企業等：日本臨床工学技士教育施設協議会
期間： 令和8年11月　対象：本科専任教員
内容 臨床現場での最新研究や事例検討等

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名： 2026年度国家試験対策研修会　連携企業等：学校法人　滋慶学園
期間： 令和8年6月　対象：本科教職員
内容 前年度国家試験の振り返りと今年度の取り組みについて

研修名： 令和8年度教育DX事例共有会　連携企業等：学校法人　滋慶学園
期間： 令和8年6月　対象：本科教職員
内容 学生教職員におけるIT・DX・AIの利活用

研修名： 滋慶学園EAST教務全体研修　連携企業等：学校法人　滋慶学園
期間： 令和8年6月　対象：本科教職員
内容 クラスの空気が変わる、学生が動き出す～『勇気づけ』で再構築する教員と学生の関係性～

（別途、以下の資料を提出）
＊ 研修等に係る諸規程
＊ 研修等の実績（推薦年度の前年度における実績）
＊ 研修等の計画（推薦年度における計画）

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

（1）学校関係者評価の基本方針
自己点検・評価結果について学校職員以外の関係者による評価を行うため、各校に学校関係者評価委員会を設置する。学校関係者評価委員会は、自己点検・評価結果の客観性・透明性を高め学校の利害関係者の学校運営への理解促進や連携協力による学校運営の改善を目的とする。

（2）「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
（1）教育理念・目標	（1）教育理念・目的・育成人材像
（2）学校運営	（2）運営方針・事業計画・システム
（3）教育活動	（3）教育目標・カリキュラム体系・成績評価・資格取得
（4）学修成果	（4）就職率・資格取得率・社会的評価
（5）学生支援	（5）就職指導・生活支援・経済的支援
（6）教育環境	（6）施設設備・学外実習・安全管理
（7）学生の受入れ募集	（7）募集活動・入学選考・学納金
（8）財務	（8）予算・収支計画・情報公開
（9）法令等の遵守	（9）法令遵守・個人情報保護・自己点検・自己評価
（10）社会貢献・地域貢献	（10）社会貢献・地域貢献・ボランティア活動
（11）国際交流	（11）国際交流・留学生

※（10）及び（11）については任意記載。

（3）学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会で得た評価に基づき、校内の自己点検委員会で次年度の重点項目について見当を行う。検討した事項について令和9年1月の運営会議に諮り、2月下旬までに次年度の重点項目を決定し、事業計画に反映させ次年度の学校運営を行っていく。

（4）学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和8年4月1日現在

名　前	所　　属	任期	種別
橋本　敦	一般社団法人　TMG本部	令和8年4月1日～令和10年3月31日（2年）	業界代表
古川　哲也	医療法人柏葉会　柏戸病院	令和8年4月1日～令和10年3月31日（2年）	業界代表
手塚　平	株式会社 粘土科学研究所	令和8年4月1日～令和10年3月31日（2年）	業界代表
嶋本　智明	株式会社 コクミン	令和8年4月1日～令和10年3月31日（2年）	業界代表
鈴木　隆英	成田高等学校	令和7年4月1日～令和9年3月31日（2年）	高校関係者代表
鈴木　信良	江戸川区葛西仲町町会	令和7年4月1日～令和9年3月31日（2年）	地域代表
柴崎　由美子	本校看護学科 在校生保護者	令和7年4月1日～令和9年3月31日（2年）	保護者代表
加藤　亮	医療法人社団 同愛会病院	令和8年4月1日～令和10年3月31日（2年）	卒業生代表

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
（例）企業等委員、PTA、卒業生、校長等

（5）学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

（ホームページ　・　広報誌等の刊行物　・　その他（　　））

URL：　https://www.tcm.ac.jp/school/public_info/info.html

公表時期：　令和8年6月30日

（別途、以下の資料を提出）

＊　学校関係者評価委員会の企業等委員の選任理由書（推薦学科の専攻分野との関係等）※別紙様式３－２

＊　自己評価結果公開資料

＊　学校関係者評価結果公開資料（自己評価結果との対応関係が具体的に分かる評価報告書）

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

（1）企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校の教育活動の取り組みについて社会に対する説明責任を果たすとともに、構成で透明性の高い運営を推進し、教育活動の室の向上や社会全体からの信頼の獲得に資することを目的とする。

（2）「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
（1）学校の概要、目標及び計画	学校の概要、目標及び計画
（2）各学科等の教育	各学科等の教育
（3）教職員	教職員組織
（4）キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育・実践的職業教育
（5）様々な教育活動・教育環境	様々な教育活動・教育環境
（6）学生の生活支援	学生の生活支援
（7）学生納付金・修学支援	学費一覧
（8）学校の財務	学校の財務
（9）学校評価	学校評価
（10）国際連携の状況	国際連携の状況
（11）その他	防災

※（10）及び（11）については任意記載。

（3）情報提供方法

（ホームページ ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他（　　））

URL：　https://www.tcm.ac.jp/school/public_info/info.html
https://www.tcm.ac.jp/admissions/tuition.html

公表時期：　令和8年6月30日

（別途、以下の資料を提出）

＊　情報提供している資料

（備考）

・用紙の大きさは、日本産業規格A4とする（別紙様式１－２、２－１、２－２、３－１、３－２、４、５、６、７、８についても同じ。）。

（別紙様式１－２）

授業科目等の概要

（医療専門課程　臨床工学技士科）

	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			医療工学基礎 Basic Sciences for Medical Engineering	医学を学ぶ上で必要な基礎知識として、工学に必要な単位や化学の基礎知識などを幅広く理解する。	1前	60	4	○	○		○		○		
2	○			医療数学 Medical Mathematics	数学の基礎的・基本的、計算力を始め、他の工学科目に応用できる数学力を身に付ける。	1前	30	2	○			○			○	
3	○			キャリアデザインⅠ Career DevelopmentⅠ	臨床工学技士の職業像を明確にする。また自主的に学ぶ姿勢を身に付ける。	1全	60	4	○	○		○		○		
4	○			キャリアデザインⅡ Career DevelopmentⅡ	臨床工学技士の職業像をより明確にする。また自主的に学ぶ姿勢を身に付ける。	2全	60	4	○	○		○		○		
5	○			キャリアデザインⅢ Career DevelopmentⅢ	臨床工学技士の職業像を具体化する。また自主的に学ぶ姿勢を身に付ける。	3全	60	4	○	○		○		○		
6	○			医療英語 Medical English	臨床医学を中心として、医学用語、略語、病歴、診察所見などの英文解釈と医学知識を同時に理解する。	1前	30	2	○			○			○	
7	○			人の構造と機能 Anatomy	骨、筋肉、神経系、呼吸器系、消化器系、循環器系、内分泌器系、感覚器系、泌尿器系などの構造と機能などを理解する。	1後	60	4	○			○			○	
8	○			臨床医学総論 Clinical Medicine General Remarks (Pathology)	臨床工学技士に必要な臨床医学的知識を中心に幅広く理解する。	1全	60	4	○			○			○	
9	○			病理学 Pathology	臨床工学技士に必要な病気の原因、発生機序の解明や病気の診断などについて学ぶ。	1後	45	3	○			○			○	
10	○			臨床生理学 Clinical Physiology	疾病と生理機能（呼吸、循環、代謝、神経、筋系）との関連知識について理解する。	1後	60	4	○			○		○		
11	○			公衆衛生学 Public Health	健康の維持、予防医学の重要性を認識し、一般衛生、労働衛生および疾病予防など公衆衛生の分野を理解する。	3前	30	2	○			○			○	
12	○			電磁気学 Electromagnetism	静電気、電界と磁界、磁場と電流、電磁誘導、電磁波、誘電体、磁性体など電磁気現象の基礎について理解する。	2前	30	2	○			○			○	

	（医療専門課程　臨床工学技士科）																	
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
13	○			電気工学Ⅰ Electrical EngineeringⅠ	電気の基礎となる知識から、直流回路、交流回路、過渡現象など回路理論を中心に学ぶ。	1前	30	2	○	○		○			○	
14	○			電気工学Ⅱ Electrical EngineeringⅡ	電気工学Ⅰの知識から、直流回路、交流回路、過渡現象など回路理論を中心に学ぶ。	2前	30	2	○	○		○			○	
15	○			電子工学Ⅰ Electronic EngineeringⅠ	電子工学の基礎から増幅回路、アナログ回路、ディジタル回路など臨床工学に必要な知識を身に付ける。	1後	60	4	○			○			○	
16	○			電子工学Ⅱ Electronic EngineeringⅡ	電子工学Ⅰの知識から、増幅回路、アナログ回路、ディジタル回路など臨床工学に必要な知識を身に付ける。	2後	30	2	○	○		○			○	
17	○			電気電子工学実習 Electrical Engineering　Practicum	電気工学並びに電子工学の知識を基に医療機器に繋がる総合的な工学の実際を実習で学ぶ。	2後	30	1			○	○		○		
18	○			電気電子工学Ⅰ Electrical EngineeringⅠ	電気工学並びに電子工学の知識を基に医療機器に繋がる総合的な工学の学習をする。	3前	30	2	○			○			○	
19	○			電気電子工学Ⅱ Electrical EngineeringⅡ	電気電子工学Ⅰで学んだ基礎と、医療機器の繋がりを応用的に学ぶ。	3後	60	4	○	○		○			○	
20	○			計測工学 Medical Instrument Engineering	電気電子計測の基礎から測定論、生体情報の計測、生体物性を介する計測、生体物理化学情報の計測原理などについて理解する。	2後	30	2	○			○			○	
21	○			システム･情報処理工学Ⅰ Systems＆ Introduction to Computer ScienceⅠ	生体計測やエネルギー入出力の際に必要な情報処理工学、システム工学の基礎を学び理解を深める。	1後	30	2	○			○			○	
22	○			システム･情報処理工学Ⅱ Systems＆ Introduction to Computer ScienceⅡ	システム工学の応用を習得して、医療機器への発展を学ぶ。	2前	30	2	○	○		○		○		
23	○			システム･情報処理工学実習 Systems＆ Introduction to Computer Science Practicum	実習を通して、システム工学および情報処理工学の理解を深める。	1全	60	2			○	○			○	
24	○			機械工学Ⅰ Mechanical EngineeringⅠ	医用機器の原理となる機械力学、流体力学、振動と超音波、熱力学を中心に学ぶ。	1後	30	2	○			○			○	
25	○			機械工学Ⅱ Mechanical EngineeringⅡ	機械工学Ⅰで学んだ基礎の確認と、医用機器への応用を学ぶ。	2前	30	2	○			○			○	

	（医療専門課程　臨床工学技士科）																	
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
26	○			生体物性工学 Bio-Physical Properties for Human Body	生体における輸送現象、電気特性、力学的特性、熱特性、光学的特性など工学的な観点から生体の特性を理解する。	2前	30	2	○			○			○	
27	○			材料工学 Biomaterials	人工材料の生体適合性や高分子材料などについて理解する。	1後	30	2	○			○			○	
28	○			医用治療機器学 Therapeutic Device and Equipment	多岐に渡る医用治療機器の原理･用途などの概要およびその他保守、管理技術などを理解する。	1後	60	4	○			○			○	
29	○			生体計測装置学 Physiolocal Test Equipments of Patient	循環器系、神経･筋系、呼吸器系計測器、医用画像機器、生化学分析機器等の構成と原理、保守点検技術を理解する。	2前	30	2	○			○			○	
30	○			医用治療機器学実習 Therapeutic Device and Equipment Practicum	多岐に渡る医用治療機器の原理･用途などの概要およびその他保守、管理技術を中心に実習する。	2前	60	2			○	○			○	
31	○			生体計測装置学実習 Physiolocal Test Equipments of Patient Practicum	循環器系、呼吸器系、筋・神経系計測器などを用いて、生体計測工学の理解を深め、操作、解析、保守管理を実習する。	2後	60	2			○	○			○	
32	○			カテーテルデバイス総論 Catheter Device General Remarks	心臓カテーテル業務における知識を習得して、業務内容と関連する医療機器の種類や各種の治療方法を理解する。	3前	15	1	○			○			○	
33	○			内視鏡装置総論 Endoscope Device General Remarks	各種内視鏡検査及び治療や、内視鏡装置の種類や運用方や、法を理解する。そして、臨床工学技士の内視鏡業務の内容を理解する。	3前	15	1	○			○			○	
34	○			生体機能代行技術学Ⅰ（呼吸） Artificial Organic Apparatus and MachineⅠ（Respiration）	呼吸療法装置について、適切な操作と保守点検ができるようにその種類・原理・構成・用途について理解する。	2全	60	4	○			○			○	
35	○			生体機能代行技術学実習Ⅰ（呼吸） Artificial Organic Apparatus and Machine Practicum Ⅰ（Respiration）	呼吸療法装置について、適切な操作と保守点検ができるよう実習する。	2後	30	1			○	○			○	
36	○			生体機能代行技術学Ⅱ（循環） Artificial Organic Apparatus and MachineⅡ（Circulation）	体外循環装置について、適切な操作と保守点検ができるようにその種類・原理・構成・用途について理解する。	2全	60	4	○			○			○	
37	○			生体機能代行技術学実習Ⅱ（循環） Artificial Organic Apparatus and MachinePracticum Ⅱ（Circulation）	体外循環装置について、適切な操作と保守点検ができるよう実習する。	2後	30	1			○	○			○	
38	○			生体機能代行技術学Ⅲ（代謝） Artificial Organic Apparatus and MachineⅢ（Metabolism）	血液浄化装置について、適切な操作と保守点検ができるようにその種類・原理・構成・用途について理解する。	2全	60	4	○			○		○		

	（医療専門課程　臨床工学技士科）																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
39	○			生体機能代行技術学実習Ⅲ（代謝） Artificial Organic Apparatus and Machine Practicum Ⅲ（Metabolism）	血液浄化装置について、適切な操作と保守点検ができるよう実習する。	2後	30	1			○	○		○		
40	○			医療安全管理学Ⅰ Medical Safety Management Ⅰ	医用機器における安全管理を機器、施設および管理について学ぶ。	1後	30	2	○			○			○	
41	○			医療安全管理学Ⅱ Medical Safety Management Ⅱ	医用機器安全管理学Ⅰで学んだ基礎を現場での実際と繋げていく。	2前	15	1	○			○		○		
42	○			医療安全管理学Ⅲ Medical Safety Management Ⅲ	医用機器安全管理学Ⅱで学んだ基礎を現場での実際と繋げていく。	3前	30	2	○			○			○	
43	○			医療安全管理学実習 Medical Safety Management Practicum	臨床工学において、機器や施設など種々の安全管理について実習する。	3前	30	1			○	○			○	
44	○			臨床医学各論 General Clinical Medicine	臨床医学的知識について、疾患と症状を中心に幅広く学ぶ。	3前	30	2	○			○			○	
45	○			関係法規 Regulations for Clinical Engineering Technologist	医療法規概説、臨床工学技士法、関連法規、医療過誤等について理解する。	1前	15	1	○			○			○	
46	○			臨床技術総論 Clinical Techniques General Remarks	病院で成果に繋がる働き方をするため、他職種の理解、チーム医療の在り方や、臨床工学技士の役割などを学び、チーム医療の実際と繋げる。	1前	30	2	○			○			○	
47	○			臨床工学特論 Advanced Clinical Engineering	臨床工学分野の課題テーマを選択して研究の姿勢や手法を学び、将来の業務に役立てる。	2前	30	2		○		○		○		
48	○			臨床実習前教育 Preparation for Clinical Practicum	臨床実習にあたり、必要な態度、考え方を身に付け、実習生として必須の呼吸・循環・代謝に関わる知識と技術を身に付ける。	3前	30	2	○			○		○		
49	○			臨床実習後教育 Post-Clinical Practicum	臨床実習を終え、必要な態度、考え方を振り返り、自身の課題を明確にする。	3前	15	1	○			○		○		
50	○			臨床実習 Clinical Practicum	臨床工学技士として基礎的な実践能力を身に付け、医療における臨床工学の重要性を理解してチーム医療の一員としての責任と役割を自覚する。	3前	180	6			○	○				○
51	○			臨床工学技士総合演習Ⅰ（呼吸） Preparation for the National Examination Ⅰ (Respiration)	国家試験呼吸分野の出題傾向を知り、過去問題集を解く過程で解答解説を作成し解答能力を高める。	3後	30	2	○	○		○		○		

	（医療専門課程　臨床工学技士科）																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
52	○			臨床工学技士総合演習Ⅱ(循環) Preparation for the National ExaminationⅡ (Circulation)	国家試験循環分野の出題傾向を知り、過去問題集を解く過程で解答解説を作成し解答能力を高める。	3後	30	2	○	○		○			○	
53	○			臨床工学技士総合演習Ⅲ(代謝) Preparation for the National ExaminationⅢ (Metabolism)	国家試験代謝分野の出題傾向を知り、過去問題集を解く過程で解答解説を作成し解答能力を高める。	3後	30	2	○	○		○		○		
54	○			臨床工学技士総合演習Ⅳ (基礎医学) Preparation for the National ExaminationⅣ	国家試験基礎医学分野の出題傾向を知り、過去問題集を解く過程で解答解説を作成し解答能力を高める。	3後	45	3	○	○		○			○	
55	○			臨床工学技士総合演習Ⅴ (生体計測装置学) Preparation for the National ExaminationⅤ (Physiolocal Test Equipments of Patient)	国家試験生体計測装置学分野の出題傾向を知り、過去問題集を解く過程で解答解説を作成し解答能力を高める。	3後	30	2	○	○		○			○	
56	○			臨床工学技士総合演習Ⅵ (医療治療機器学) Preparation for the National ExaminationⅥ (Therapeutic Device and Equipment)	国家試験医用治療機器学分野の出題傾向を知り、過去問題集を解く過程で解答解説を作成し解答能力を高める。	3後	30	2	○	○		○			○	
57	○			臨床工学技士総合演習Ⅶ (物性材料) Preparation for the National ExaminationⅦ (Bio-physical Properties)	国家試験物性材料分野の出題傾向を知り、過去問題集を解く過程で解答解説を作成し解答能力を高める。	3後	15	1	○	○		○			○	
58	○			臨床工学技士総合演習Ⅷ(情報) Preparation for the National ExaminationⅧ (Introduction to computer Science)	国家試験安全分野の出題傾向を知り、過去問題集を解く過程で解答解説を作成し解答能力を高める。	3後	30	2	○	○		○			○	
59	○			臨床工学技士総合演習Ⅸ(総合) Preparation for the National ExaminationⅨ (All subjects)	国家試験情報分野の出題傾向を知り、過去問題集を解く過程で解答解説を作成し解答能力を高める。	3後	60	4	○	○		○			○	
60	○			ＭＥ2種総合演習Ⅰ(工学) Preparation for the National Examination for Biomedical EngineeringⅠ (Engineering)	ＭＥ2種試験工学分野の出題傾向を知り、過去問題集を解く過程で解答解説を作成し解答能力を高める。	2前	30	2	○	○		○			○	
61	○			ＭＥ2種総合演習Ⅱ(医学) Preparation for the National Examination for Biomedical EngineeringⅡ(Medical)	ＭＥ2種試験医学分野の出題傾向を知り、過去問題集を解く過程で解答解説を作成し解答能力を高める。	2前	30	2	○	○		○			○	
62	○			ＭＥ2種総合演習Ⅲ(総合) Preparation for the National Examination for Biomedical EngineeringⅢ (All Subjects)	ＭＥ2種試験全般の出題傾向を知り、過去問題集を解く過程で解答解説を作成し解答能力を高める。	2前	30	2	○	○		○			○	
63	○			キャリア演習Ⅰ Career PracticumⅠ	医療人としての考え方・責任を学び、実践できるようにする。	1前	15	1	○	○		○		○		

（医療専門課程　臨床工学技士科）

	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
64	○			キャリア演習Ⅱ Career PracticumⅡ	医療人としての考え方・責任を学び、より実践できるようにする。	2前	15	1	○	○		○		○		
65	○			キャリア演習Ⅲ Career PracticumⅢ	医療人としての考え方・責任を学び、より実践できるようにする。	3前	15	1	○	○		○		○		
66	○			導入研修Ⅰ Introductory EducationⅠ	臨床工学技士の将来像を明確にし、求められる役割を知る。相互支援の関係作りの構築を図る。キャリア教育の芯とする。	1前	15	1	○	○		○		○		
67	○			導入研修Ⅱ Introductory EducationⅡ	臨床工学技士の将来像をより明確にし、求められる役割を知る。相互支援の関係作りの再構築を図る。キャリア教育の芯とする。	2前	15	1	○	○		○		○		
68	○			導入研修Ⅲ Introductory EducationⅢ	臨床工学技士の将来像を明確にし、求められる役割を知る。相互支援の関係作りをより発展させ、確立させる。 キャリア教育の芯とする。	3前	15	1	○	○		○		○		
69	○			業界研究 Industry Research	将来の職場となるクリニックや病院の実業務を観察し、チーム医療の一員としての役割を理解する。	1後	30	2	○	○		○	○	○		○
70	○			国際教育 Overseas Fieldwork	海外での臨床工学技士の役割を知り日本との違いを学ぶ。また、国際的な視野や価値観を身に付ける。	2後	15	1	○	○		○			○	
合計							156	2595								単位時間

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件： 当該学年に取得すべき科目を全て履修し、評価認定されたものが卒業できる。	１学年の学期区分	2 期
履修方法： 本校が定める所定の科目授業に出席し、成績評価をおこなう。	１学期の授業期間	24 週

（留意事項）

１　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

２　企業等との連携については、実施要項の３（３）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。